

相互承認と多様性の尊重に基づく「協働」を大切にした教育

～ 「共に生きる」高齢者が暮らしやすいまちを目指して ～

日の出町教育委員会では、多様な個人それぞれがしあわせや生きがいを感じられる地域や社会とするために、教育を通して、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と「協働」しながら社会的な変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の担い手の育成に努めています。

そのために、行政をはじめ、学校や保護者、自治会、大学、企業・商店街、NPO・ボランティア団体など、様々な主体や場を生かした協働の教育づくりを目指しています。

日の出町立本宿小学校では、令和4年9月に、東京大学大学院医学系研究科と「高齢者にやさしい地域づくり」に関する覚書締結を契機として、6年生の総合的な学習の時間「共に生きる～高齢者が暮らしやすいまちを目指して～」の授業で、超高齢社会の現状と課題について理解を深めさせ、共に生きることの大切さについて考え、相手の立場に立って自分にできることを考える学習を行いました。

東京大学大学院医学系研究科と本宿小学校で『共に生きる』授業づくりワーキンググループを編成し、総合的な学習の時間を中心に15時間分の学習計画を立て授業を行いました。

自身や周囲の人々のウェルビーイングに意識を向け、対話を促すツール「わたしたちのウェルビーイング・カード」や認知症の方と出会った時の対応について意見交換をしながら考える「N-impro（ニンプロ）カード」を活用した学習活動や、町内で高齢者と関わりのある医療機関や商店、施設や関係団体の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、高齢者とのかかわりについてお話を伺いました。詳しくは、日の出町立本宿小学校の学校ホームページ「本宿小ニュース（外部リンク）」(<https://honjyuku.jimdofree.com/>)の10月、11月、12月に掲載されています。

